

第20回

浜松市芸術祭演劇部門

主催・浜松市教育委員会



第二十回演劇公演によせて

浜松市教育長 相佐明 一

浜松市芸術祭は、昭和三十年第一回の演劇公演を開催してから、
本年度で記念すべき二十周年を迎えることができました。

全市を挙げてのこの秋の行事が年々盛大になってまいりましたこ
とは、喜びにたえません。

このかげには、各々の演劇団体が、異った立場や環境にありなが
ら、演劇活動を通して一体となり、不断の研究努力をなしたたまも
のであります。

これらの人々が、浜松市における文化向上の旗手としての役割を
十分に果してくるることについて、市民の皆さんも深い理解をもつ
て御支援くださることと確信しております。

加えて、多くの人々に演劇の豊かな実りを共に分ち合おうとする
アマチュア演劇が、さらにこの浜松の地で発育を遂げ、ますます文
化都市としての発展に寄与されることを心より希望いたします。

と き 49・11・17 (日)

と ころ 浜松市民会館ホール

主 催 浜松市教育委員会

主 管 浜松社会人演劇連盟

上演時間

- ◎ 12:00~13:20 劇団みやま「神無月」
- ◎ 13:40~14:40 演劇サークル鬼の村「にんじん」
- ◎ 15:00~16:40 浜松放送劇団「たつのおとしご」
- ◎ 17:00~18:20 浜松の演劇を育てる会
「トマトフィリア・怒りのヌンチャク」
- ◎ 18:40~19:50 劇団からつかぜ「とろいめらい」

静岡卓芸術祭演劇コンクール参加作品

劇団「みやま」

劇団「みやま」

引佐郡引佐町

「神無月」

スタッフ

大橋 喜一 作

演 出 …… 新田 克良
 舞台装置 …… 平山 敏久
 照明 …… 野 沢 照 陽
 効 果 …… 山 下 孝 房
 総監督 …… 野 末 一 行

キャスト

ま つ …… 杉 山 元 子
 東 六 …… 青 木 邦 寿
 道 子 …… 池 田 美 登 利

「どうすりゃあいいんだ」

おッ母！ 俺は精一杯働いて来たんだ。

でもどうしようもないんだ。社会が悪いんだ。

道子！ 出て行ってしまふのか。昔の夢は

どうしたんだ。もう一度やり直そうよ。

道子――。

明治、大正、昭和よく働いて来たもんだ。

しかし、体は弱るし、嫁にも息子にも言いた

いことは山ほどあるし、私しやどうしたもん

かね。ねえ神様、観客の皆様。この年寄りを

どうにかしておくれよ。

南無妙法蓮華経、南無妙法蓮華経

今年より「みやま」と命名致しまして、活

動に励んでいます。何しろ団員十余名、しか

もそれぞれに忙しい身で仲々活動の方もま

ならぬ時もあります。でもそこは、十九歳、

二十四歳という若さ溢れる仲間達。

今度の「神無月」も三人の内、二人までが、

初舞台という思いきった登用です。

今後共、よろしくお願ひ致します。



静岡県芸術祭演劇コンクール参加作品

演劇サークル「鬼の村」

にんじん

ジュール・ルナール 作

山田 珠樹 訳

演 出……松島清美
キヤスト

フランソワ……森本知子
ルビック氏……坪井藤育
ルビック夫人……横村温子
アンネット……松島清美

スタツフ

舞台監督……森本知子
舞台美術……渡瀬万記子
製 作……中村睦男
照 明……山本 誠
衣 装……大場夏代
効 果……中村睦男

「にんじん」は異常な性格の母子の憎みあ
わざるをえない悲劇では断じてない。

愛情を伝える口と舌の使い方を、つまり表
現を心得ない人間同志の悲劇だ。

奥深い心の内から出てくる愛の声と行動を
憎しみと取りちがえてしまう人間同志の喜劇
だ。

——おにのむら——

私たちは働きながら学ぶ浜松短期大学Ⅱ部
の学生です。昼の大学生も加わってなんとか
今のサークルを形成しているのですが……。
私たちの放課後は八時四十分。あれこれし
ているうちに今日でなくなる時もしばしばな
んですよ。

真夜中に大声をはりあげたり、かなづちふ

るったり、とにかく時間が無いというのが、
あいことばになり、時間がないのに慣れてし
まった今日このごろです。

演劇をやりたくて集まってるのかしら……？
友だちの顔が見たくて来るのかな……？
それとも……？

けんかもします。ばかな事もいいます。
演劇なんて何なのかわからない人たちがばかり
ですもの。

仕事も楽し、講義も楽し、サークルも楽し、
なんて甘いことばかりは決してありません。

仕事も苦しい、試験もある、サークルもう
まくいかない——。これが鬼の村の現状だと
こぼす人もいます。それでも一日に一度はサ
ークル室へ顔を出したくなる人の集まりだと
言えそうです。

はつぴを着てどこへでも行きます。

おに、おに、おに、ひとりひとりが何かの
「鬼」になれたら、このサークルは鬼の村と
してりっぱな部落を成立させていくことがで
きるのではないかと思うのです。

おにさん、おにさん、公演は真近ですよ！！

——村長——

た つ の お と し ご

真船豊作

演 出……村越一哲	舞台監督……古賀昭隆	装 置……杉山勝義	照 明……石川庄治	効 果……坂本薫平	衣 裳……牧野照彦	小道具……青山葉子	羽沢幸吉 岡本和孝	その妻美代子 鈴木せつ子	矢島京子 鈴木多見子	その子辰夫 石橋純一	高平与一 大久保学	その子芳子 富田洋子
-----------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	--------------	------------	------------	-----------	------------

キャスト

解説 今から二〇年前、「浜松ユネス

コ協会」の主催で行なわれた浜松市芸術祭に「演劇愛好会」がこの「たつのおとしご」を上演した。その時のスタッフ、キャストは、

演 出……村越一哲	装 置……菅沼五十一	照 明……森田 見	効 果……鈴木 三	舞台監督……木下 忠	衣 裳……小池 越子	小道具……佐倉 忠夫
-----------	------------	-----------	-----------	------------	------------	------------

キャスト

羽沢幸吉……中山 保	その妻美代子……大庭 瑞枝	矢島京子……本田 美佐子	その子辰夫……田中 敏夫	高平与一……中山 隆	その子芳子……小池 不二子
------------	---------------	--------------	--------------	------------	---------------

である。このうち、幸吉、美代子、芳子は、放送劇団員であり、与一も後に劇団員になったので、この芝居は我劇団にとって極めて因縁浅かざるものである。今の若い劇団員の演技が先輩諸氏に比して著しく遜色なき様演ぜられるかどうか、先ずは、ごゆっくりと御覧をいただきたいと思えます。

梗概

終戦後四年、東京に近いある海岸沿いの住宅地、秋深い頃、大陸から引揚げた後中国ものなど書いて一応名を成した通俗作家、羽沢幸吉の古ぼけた住宅の洋室。終戦直後の引揚げのごたごたの際結婚した妻の美代子と共に、朝食を取ろうとしている。

如何にも平和そうな家庭の風景であるが、夫婦それぞれの胸中には、気軽に打明けられないわだかまりがある。

それは、今朝、時を同じくして夫には、女名前の手紙、妻には男名前の手紙が着いたばかりで、二人共それを、懐にして朝食の卓に向かっているのである。幸吉に来た手紙は先妻の京子からで、京子との間には辰夫という息子がいる。美代子宛の手紙は先夫与一からで二人の間には芳子という娘がある。驚いたことには、その二組の親子が今日同時に訪ねて来るといふ文面なのである。やがてベルが鳴り、皮肉にも四人の訪問者は打ち揃って訪ねて来る。そして……

◎劇団は、ただ今、次期自主公演として、遠州堀江藩（現在の遠鉄館山寺遊園地に陣屋があった）が明治維新にまきおこした「万六騒動」を企画しています。

演技、照明、装置等、どの部門でも結構です。入団なさろうとしている方は左記へご連絡下さい。

浜松市鍛冶町一四〇の四 丸市商事内

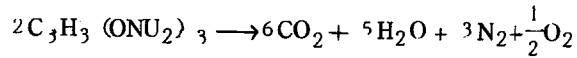
村越一哲あて電話(五四) 八二五一

ト マ ト フ ィ リ ア

怒 り の ヌ ン チ ャ ク

浜 松 の 演 劇 を 育 て る 会

ヴラッド ツェペーン ドラキュラ 生誕543年記念



私は12歳になった時、金具で掌を傷つけた。それで血を舐めた。
その瞬間、私の中に何か変動が生じた。べとべとして生あたたか
く、しょっぱい液体はまさに生命そのものであった。それは生涯つき
まとった啓示であった。

— ジョン ヘイの告白 —

” 協 力 ”

水曜会美術研究所附属演劇部

74, Gaius Julius Caesar Germanicus

山菜料理研究会

The Salamandaragues

旧 ・ 転乱会

劇団からつかぜ

とろいめらい

黒沢 参吉 作

スタツフ

演 出……宮 下 公 平

舞台監督……河 村 直 子

美術……劇団からつかぜ舞台美術部

キヤスト

男の子……平 山 真 理

女の子……森 下 登 己 栄

床 屋……新 田 一 平

隣のおかみさん……齊 木 と も え

初老の男……小 津 三 郎

若い男……水 無 川 剛

老 人……戸 川 純

アナウンサー……大久保 学

(協 力
浜松放送劇団)

ものがたり

男の子は、さつきからずつと空を見上げています。一週間前に放した鳩がまだ帰ってこないのです。とつても大切にかわいがつていたのに……。かあちゃんは、相変らず苦しそうな咳をして寝ています。男の子と大の仲

よしだったむかいの家の女の子も、発作に苦しみぬいて、とうとう死んでしまいました。

ここ「ある町」では大気汚染による公害病患者の中で、すでに十八人も死者が出ているのです。男の子は、くやしうつてたまりません。

「なんとか工場のえんとつから出る煙をとめられないものかなあ。」だつて鳩が帰つてこないのも、かあちゃんの病気も、女の子が死んじまつたのも、みんなあの煙のせいなのだから……。男の子は考えます。

「ウルトラマンみたいに変身できたらなあ。」この男の子が「ある町」に大事件をひきおこします。さて……。

からつかぜ 20歳になりました。

劇団からつかぜは、浜松市芸術祭と同じ昭和二十九年に生まれました。最初の九年間の活動は、芸術祭と県移動公演が中心。その後

は、それらに加えて活発な自主公演を続けてきました。県芸術祭賞を受賞した「獅子」、演劇協例会にとりあげられた「分裂気質」、先の二十周年記念公演「どん底」など、数々の作品を上演してきましたが、これらの成果を今後の芝居作りや新人教育にどう生かしていくかが大きな課題です。

芝居の面白さ、浜松の地に根っこをおろすことの意味……やつとわかりかけた二十歳のからつかぜに、これからも御声援を。

冬の公演は公民館での第三回からつかぜ小劇場。勝山俊介作「鳩」と金芝河作「銅の李隣臣」の二本立です。寒い冬の夜、できたてほやほやのあつたかなお芝居をお届けします。

11期研究生募集

十月から11期生がスタートしました。マラソン、体操、座学にオシャベリ、歌つたり絵を描いたり、そのエネルギーをこなすこと。あなたも11期生に加わって若さを燃やしてみませんか。

連絡先 浜松市中島町二四一九

劇団からつかぜ

(TEL) 63-6011

県芸術祭参加作品を上演するようになってからの「引佐町青年団」や「豊田町青年団」等の今後の活躍が期待される。

以上、駄足で各劇団のプロフィールを紹介してきたが、特別すべきは、第十五回の時にかねてからの念願であつた合同公演を行なつたことである。

浜松放送劇団、劇団からつかぜ、劇団だるま、国鉄浜松工場の四劇団が参加し、

ヘンリック・イブセン作、菅原卓訳「民衆の敵」五幕、登上人物四十名に上る大作を上演し、引続き浜松市の成人式の記念公演としても取上げられ好評を博した。

十六回には、放送劇団、だるま、国鉄浜松で、山本有三作「生命の冠」より、村越一哲作「蟹」。十七回には、ピーター・シェファール作、木村晰訳「ブラック・コメディ」などの合同公演がもたれ、大きな成果があげられている。

物価の高騰による経済的な諸問題、さらに減少する劇団員など、地方に於ける演劇活動は年々歳々、困難の度を加えつつある。

それは、再生産のきかない業余劇団の宿命かも知れない。

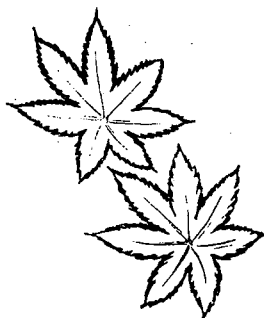
幾多の劇団の栄枯盛衰、有為転変が何より

も雄弁にその事実を物語っている。

しかし、二十年の歴史の重みは、それを乗り越えて発展していくのに十分な素地を培つた。

成人した芸術祭は、それに耐えていく強力な体質を作り上げる事に成功したと言えよう。いろいろな仲間や先輩諸氏の努力と青春の情熱を血や肉として……。

(浜松市芸術祭実行委員会)



出演団体

第一回

昭和30年

もう少しだ待っている
むじな派のはなし
村の保守党
明日を告げる鏡
深い疵
血漿

国鉄浜松工場
笹井青年会
劇団からつかせ
新津青年会
芳川青年会
劇団ひくまの

第二回

昭和31年

長上青年会
国境の夜
愚い出を売る男
終列車の男
けつまずいても
ころんでも
にせあかしや
紙飛行機
めんどり
雪の山
めでたい座敷
祝い日
修繕寺物語

長上青年会
吉野青年会
劇団ひくまの
広沢青年会
劇団からつかせ
大和染工

第三回

昭和32年

若い炎
死神やらい
みちずれ
峠の青春
川上観音
燈台
二十歳

内外編物
長上青年会
劇団ひくまの・たけのこ
劇団からつかせ
神久呂青年会
本田技研
演研青い猫
笹井青年会

第四回

昭和33年

秋の歌
こいこく
ロートル選手
河童退散
怒らんぼ人情
おらあおまえの
もぐらもち
おやし
制服

演研青い猫
新津青年会
劇団竹の子
芳川青年会
内外編物
サークル
だるまの会
長上青年会
劇団からつかせ

第五回

昭和34年

祝いの日
あざみ
祝いの日
あざみ
祝いの日
あざみ

内外編物
笹井青年会
国鉄浜松工場
演研青い猫
劇団からつかせ

第六回
昭和35年

鏡草
あざみ
祝いの日
あざみ
祝いの日
あざみ

内外編物
笹井青年会
国鉄浜松工場
演研青い猫
劇団からつかせ

第七回
昭和36年

三年寝太郎
厚い壁
権樓の歌
制衣服

国鉄浜松工場
劇団からつかせ

第八回
昭和37年

屋上の狂人
逃散
村の保守党
夕の鶴
風の鶴

国鉄浜松工場
劇団からつかせ
新津青年会
劇団からつかせ
東部部会

第九回
昭和38年

ピエール・パトラン
先生
廃園
ひこえらび
真捨夜

劇団たるま
劇団若いむれ
本田技研
NHK放送劇団
新津青年会

第十回
昭和39年

わが青春のとき
この小児
寒鳥
珍市
虚構の城

劇団たるま
新津青年会
NHK放送劇団
劇団たるま

第十一回
昭和40年

カイルのくみさんの銃
密林の帯
よたばかの星
さつばの死

劇団たるま
劇団からつかせ
新津青年会
劇団たるま

第十二回
昭和41年

赤い陣羽織
三年の夜話
さつばの死
彼らわがしを追って
くるわがしを先へ進んで
ねはならない

劇団たるま
劇団からつかせ
NHK放送劇団
劇団たるま

第十三回
昭和42年

燈台
みみずと磯
乞食の歌
半会陽
黒い太陽

劇団たるま
劇団からつかせ
NHK放送劇団
劇団たるま

第十四回
昭和43年

天使が二人天降る
瓜子姫とアマンダ
濁りの流
ピカの蔭から

劇団たるま
NHK放送劇団
NHK放送劇団
劇団からつかせ

第十五回
昭和44年

民衆の敵
乞食の歌
カリギユラ69
青い座禪
青い鳥

NHK放送劇団
劇団たるま
国鉄浜松工場演劇部
劇団からつかせ
サークルあし
カリギユラ11月
青年演劇愛好会

第十六回
昭和45年

とける魚とエリナリ
グビリーの歌
九月の日の中で

青年演劇愛好会
カリギユラ70
NHK放送劇団
劇団たるま
国鉄浜松工場演劇部
劇団からつかせ
合同

第十七回
昭和46年

人を喰った話
祝いの鶴
夕日
作品コンテツツ
獅子
ブラック・コメディ

劇団たるま
NHK放送劇団
NHK放送劇団
劇団からつかせ
北浜青年学級
劇団からつかせ
合同

第十八回
昭和47年

息子の散
悪党
財産没収
麦踏み
ある死神の話
マッチ売りの少女

劇団たるま
劇団からつかせ
NHK放送劇団
劇団たるま
NHK放送劇団
劇団からつかせ
合同

第十九回
昭和48年

薔薇のベビイ
Love Flower
瓜子姫とアマンダ
黄色いバラソルト
黒いコーモリ傘
冬の雷
化刀
薔薇のベビイ

NHK放送劇団
劇団たるま
NHK放送劇団
劇団たるま
NHK放送劇団
劇団たるま
NHK放送劇団
劇団たるま
NHK放送劇団
劇団たるま
NHK放送劇団
劇団たるま

